

塗装不良の撲滅へ

木材塗装研究会

会長 大隅 豊康



世界経済の低迷が続く中、厳しい状況にあるものの一部に持ち直しの動きが見られる。この景気判断の報道があります。本格的な景気回復は、来年後半との見解が大方のようです。

この厳しい大波をさらに乗り切るためにあらゆる最善の方策が打たれ、一丸となって取り組まれています。この不況を克服する策は、守りと攻めの両輪のバランスが大切

です。攻めはこの機会を絶好のチャンスとして捉え、積極的に先々を見通した手が打たれていきます。一方、守りは、先々不透明な時代だけに、資金や人的の現有資源の効率的な有効活用のための選択と集中化を図なければなりません。

塗装関連の企業は、現在の置かれた厳しい環境を生き残るために、守りを主軸に定め、短期間に大幅なコスト削減のアウトプットを出さなければなりません。家具、建築、建材、楽器など木材塗装をした市場規模は、ごく限られた分野ですが、その製品の塗装仕上

げによる付加価値のウエイトは非常に高いものとなっております。天然材である木材の良さをさらに生かした塗装は、まだまだ手作業に頼る工程が多く、作業者のスキルに依存しているのが実態です。

このような背景の下、木材塗装の現場で、日常直面する問題は数多くありますが、その中でも「塗装不良の撲滅」が最大の課題です。これによるマイナス点は、経済的な損失や品質の信頼性低下、納期遅れなど基本的なものですが、しかしながら、これらはマンネリ化し、問題の意識レベルが低下している傾向が見られます。

ここである不良を分析してみましよう。例えば、ある塗装工場で経験したことですが、塗装不良の上位は傷でその内容

は多種です。素材である木材に付いた傷、塗膜に付いた傷、そして、その発生原因は、人的なものによるものが大半で、見逃され後工程で見えなくなるものも目立ちます。欠陥箇所を修理するため、研磨作業で傷を取り除く工数と研磨材の材料費が掛り、また、塗り直しになった場合は、再塗装する工数、塗料などが計算され、さらに機械設備費、廃棄処理費など間接の損失額が加算されます。

このように、発生するあらゆる不良項目を損失金額に換算、目に見える形で認識することが重要となります。

さらに、この不良発生原因を追求すると、ハード面とソフト面のスキルに区分されます。塗装作業の成否は、ハード面では木材、木工加工、

塗料、温調環境などを起因とする不良発生がありますが、どちらかといえば、ソフト面である作業者のスキルに左右されます。つまり、不良撲滅のキーポイントは作業者によるものが大きいといえます。これらの諸課題を解決させるには、全員で問題を共有化、再認識をしなければなりません。

不良発生の原因となる因子の究明は、現場の全員参加の下、自由な雰囲気の中で、限りなく意見を出し尽くし、主因子を探り当て対策案を練り実行することです。塗装は、木地仕上げに始まり、下地処理、下塗り、中塗り、上塗り工程、さらに着色工程や研磨工程などが有機的に結びつき、その結果されたものが塗装製品です。この個々の工程が完全に遂行されれば不良はゼロになります。

不良撲滅の活動は、グループによるチームプレーが最もふさわしいと思われまふ。目標を共有化し、自ら定めた目標設定とその活動は、職場の活性化とその風土づくりに結びつくことでしょう。この厳しい難局を乗り切るためにグループ活動は最善の策ではないでしょうか。